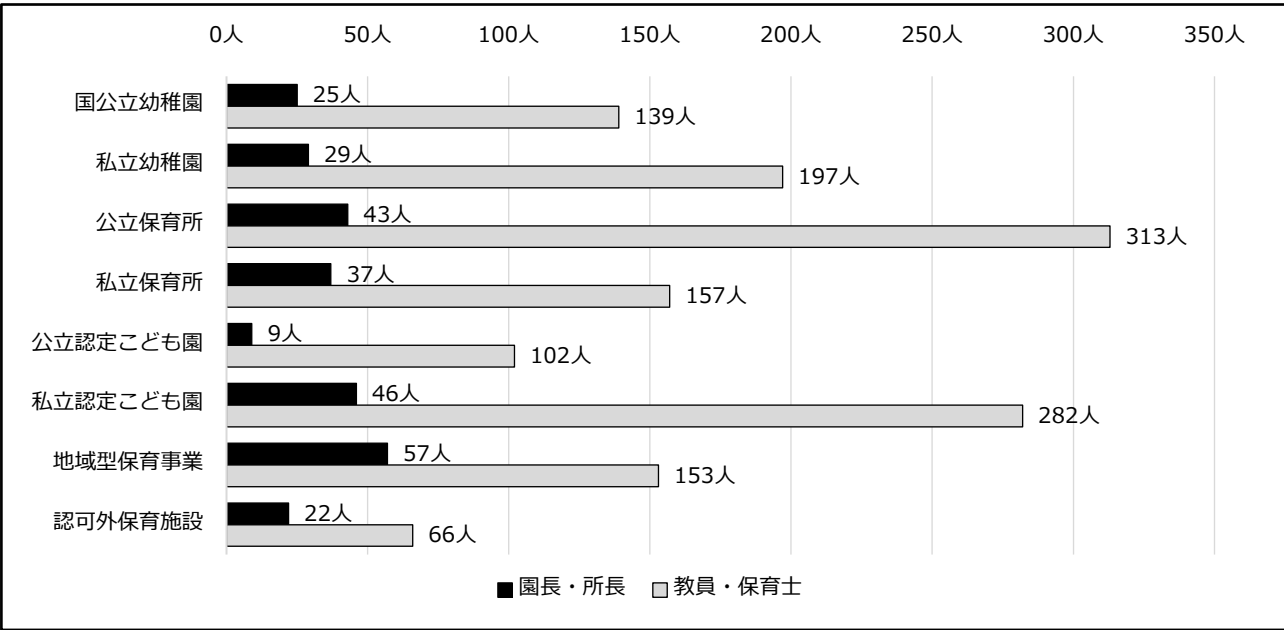


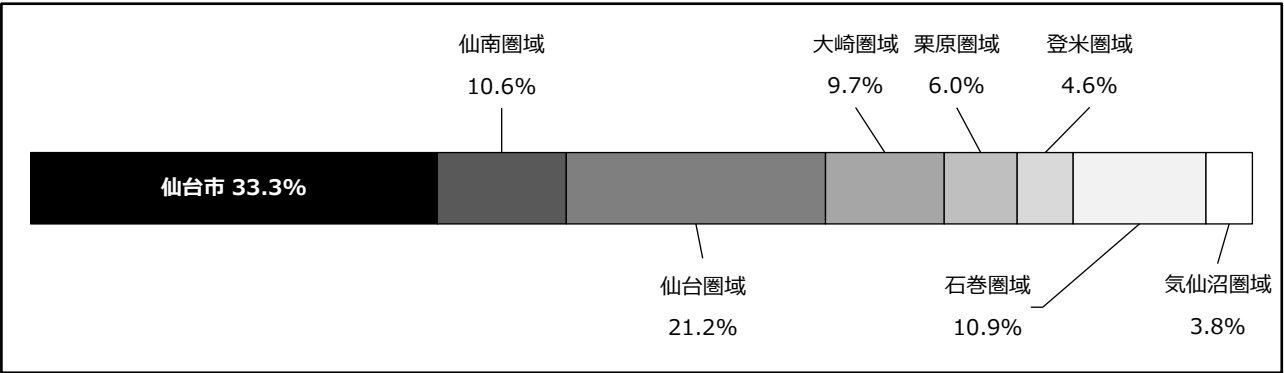
幼児教育に関わる実態調査結果（対象者：園長・所長、教員・保育士等）

回答数

対 象 施 設			園長・所長等	回 答 率	教員・保育士等	合 計
施 設 区 分		施 設 数				
幼 稚 園	国公立	45	25	55.6%	139	164
	私 立	97	29	29.9%	197	226
	小 計	142	54	38.0%	336	390
保 育 所	公 立	122	43	35.2%	313	356
	私 立	213	37	17.4%	157	194
	小 計	335	80	23.9%	470	550
認定こども園	公 立	13	9	69.2%	102	111
	私 立	237	46	19.4%	282	328
	小 計	250	55	22.0%	384	439
地 域 型 保 育 事 業		270	57	21.1%	153	210
認 可 外 保 育 施 設		241	22	9.1%	66	88
合 計		1,238	268	21.6%	1,409	1,677



施設所在地



1 保・幼・小連携について（園長・所長のみ回答）

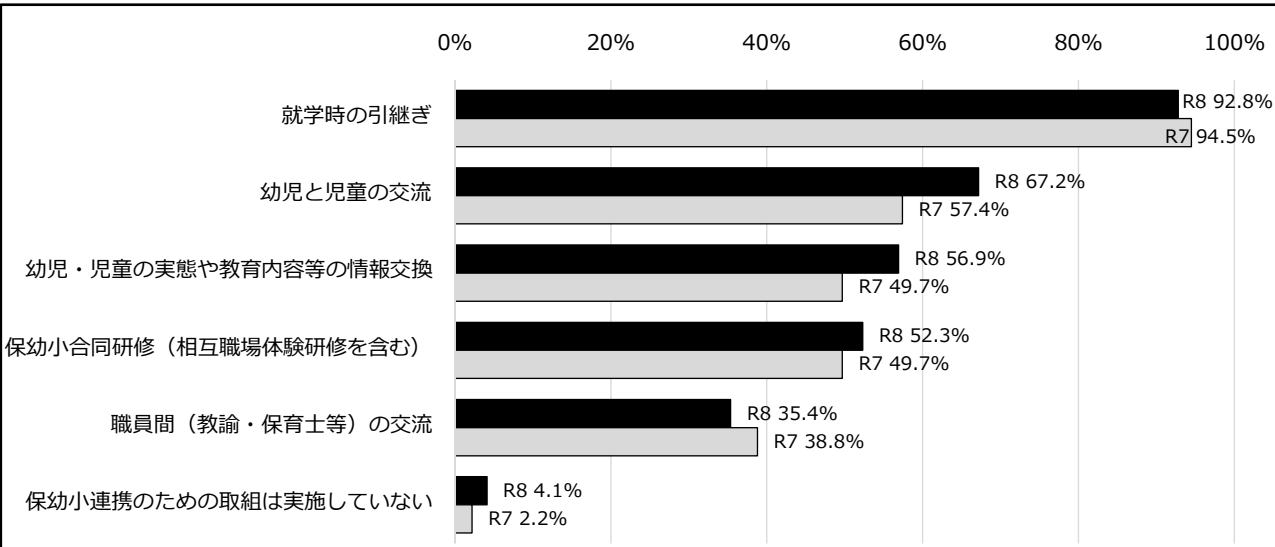
○ 基本情報の入力において「0～2歳児のみを対象とする施設」であることが分かる設問を設置

→ 全回答施設「268施設」中「73施設」がこの選択肢に該当すると回答

○ 「1-1」～「1-2-4」の設問は幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため、上記施設を除外した「195施設」の状況を集計

→ 「回答者のより正確な実態」を集計

1-1 保幼小連携・接続のための取組としてどのようなことを実施していますか。 （該当するもの全て選択）



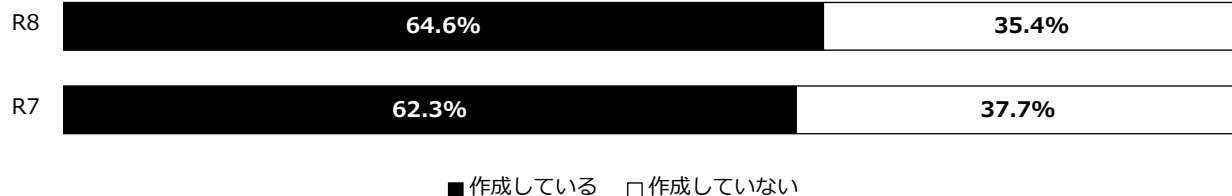
施設類型 連携内容	国公立 幼稚園	私立 幼稚園	公立 保育所	私立 保育所	公認 認定 こども園	私認 認定 こども園	地域型 保育事業	認可外 保育施設
カリキュラム作成	76.0%	69.0%	73.5%	52.8%	77.8%	79.5%	0.0%	10.0%
就学時の引継ぎ	92.0%	100.0%	97.1%	97.2%	100.0%	95.5%	37.5%	70.0%
幼児と児童の交流	88.0%	62.1%	61.8%	55.6%	88.9%	86.4%	0.0%	40.0%
職員間の交流	64.0%	31.0%	41.2%	19.4%	66.7%	34.1%	0.0%	20.0%
情報交換	80.0%	55.2%	61.8%	36.1%	77.8%	68.2%	12.5%	30.0%
保幼小合同研修	68.0%	37.9%	64.7%	44.4%	77.8%	63.6%	0.0%	10.0%
取組未実施	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	30.0%

【概要・考察等】

○ 保幼小連携・接続のための取組では、「幼児と児童の交流」が9.8ポイント、「情報交換」が7.2ポイント、「保幼小合同研修」が2.6ポイント、それぞれ昨年度より増加したことから、保幼小連携・接続の必要性・重要性について理解を深め、幼児教育と小学校教育の連携・接続を図ろうとする施設が増えてきている。

○ 「職員間の交流」は3.4ポイント減少しており、依然として課題となっていることがうかがわれるので、職員間で交流する内容や方法を工夫していく必要がある。

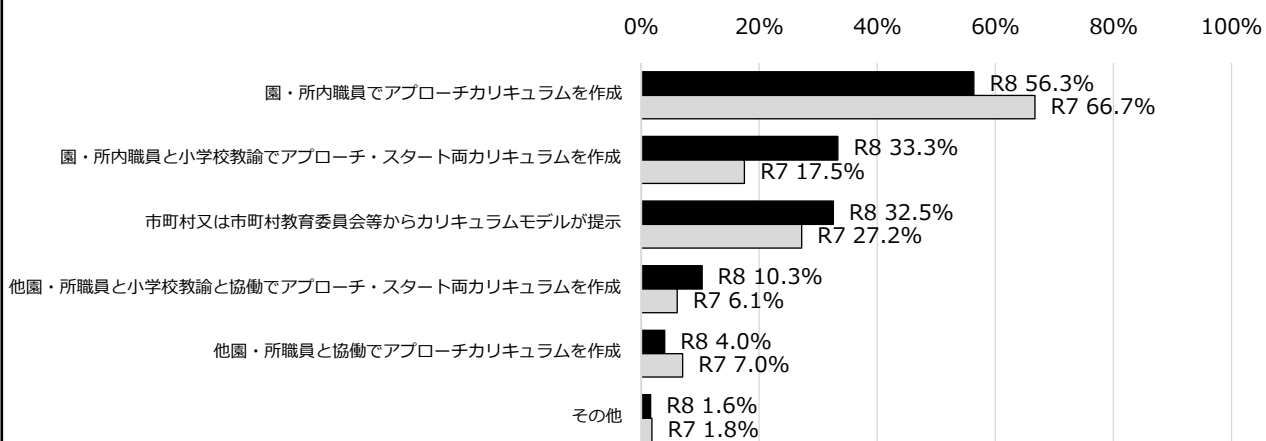
1-2-1 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを作成していますか。



【概要・考察等】

- 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを「作成している」と回答した割合は、64.6%で昨年度より2.3ポイント増加した。
- 市町村幼児教育（保幼小連携）担当者研修会等を通じて、接続期カリキュラム作成の必要性・重要性を啓発し、引き続き、各市町村がそれぞれ接続期カリキュラム作成等の保幼小の連携・接続に取り組んでいく体制づくりを更に進めていく。

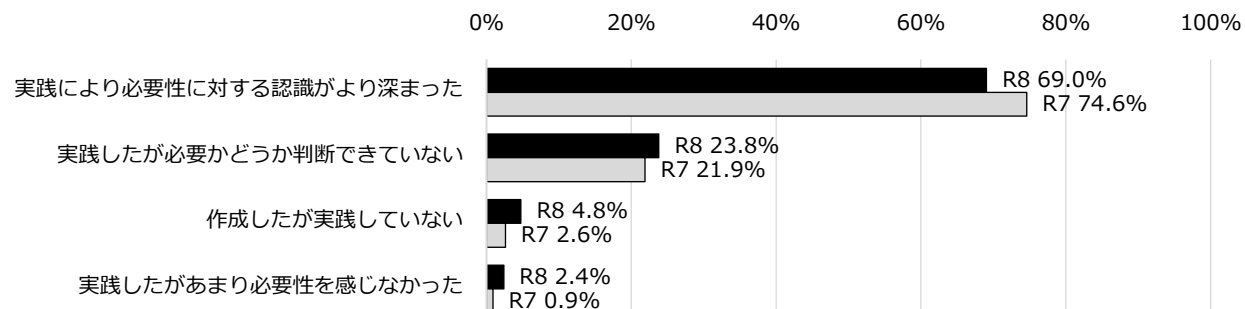
1-2-2 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、カリキュラムをどのように作成していますか。（該当するもの全て選択）



【概要・考察等】

- 「園・所内職員でアプローチカリキュラムを作成」と回答した割合は、昨年度より10.4ポイント減少している。しかし、「園・所内職員と小学校の教職員でアプローチ・スタート両カリキュラムを作成している」と回答している割合は15.8ポイント、「他園・所職員と小学校教諭と協働でアプローチ・スタート両カリキュラムを作成」と回答した割合は4.2ポイント増加しており、協働で作成している施設が増えつつある。引き続き保幼小の相互理解のもと、作成していくことの重要性を啓発していく必要がある。
- 「市町村又は市町村教育委員会等からカリキュラムモデルが提示」と回答した割合は、昨年度より5.3ポイント増加しており、市町村における保幼小の連携・接続に関しての理解促進が着実に進んでいると考えられる。

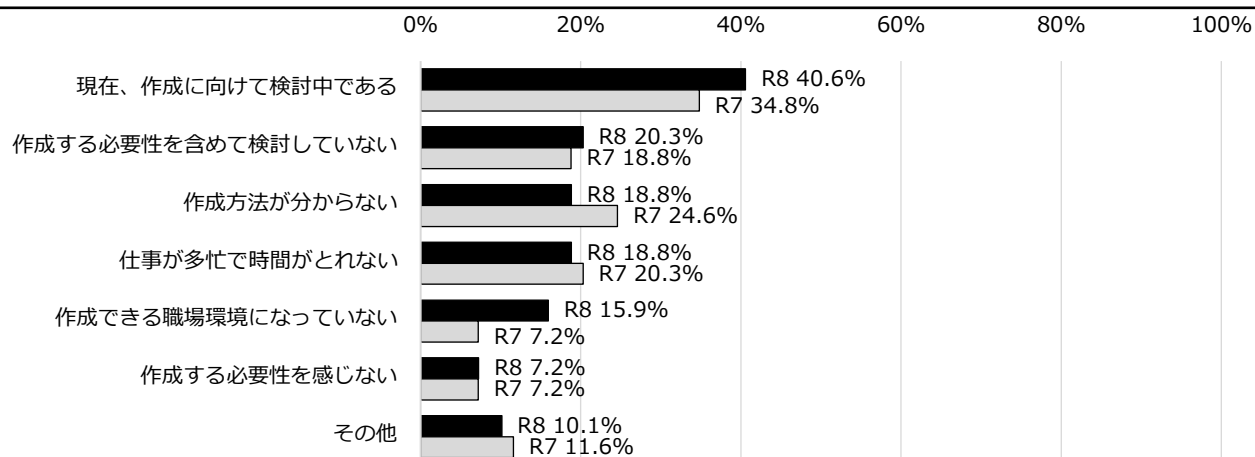
1-2-3 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、作成したカリキュラムの実践を通した園・所内全体での成果をお答えください。



【概要・考察等】

- 「実践により必要性に対する認識がより深まった」と回答した割合は、昨年度より5.6ポイント減少した。
- 「実践したが必要かどうか判断できていない」と回答した割合が1.9ポイント増加したことから、幼児や児童同士の交流や子供たちの学びの姿を実際に見る場面、保幼小の連携や接続の取組を実感として感じることができる機会を増やし、引き続き、カリキュラムの見直し等の必要性を啓発していく。

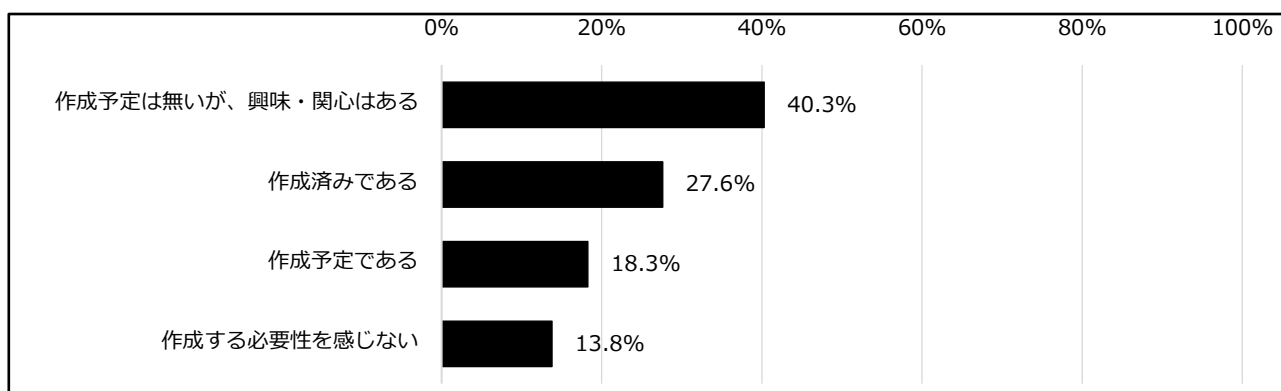
1-2-4 「1-2-1」で「作成していない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【概要・考察等】

- 「現在、作成に向けて検討中である」と回答した割合は5.8ポイント増加し、約4割が作成に向けて前向きにとらえていることが分かる。
- 「作成方法が分からない」と回答した割合は、5.8ポイント減少したが、引き続き、接続期カリキュラムの作成手順やモデルの提示・重要性を啓発していく。
- 「仕事が多忙で時間がとれない」と回答した割合は減ったが、「作成できる職場環境になっていない」と回答した割合が8.7ポイント増加しており、職場環境の改善に向けた取組が必要であることがうかがえる。

１－３ 保幼小接続のための架け橋期（５歳児から小学校１年生までの２年間）のカリキュラムを近隣の小学校等と協働で作成していますか。

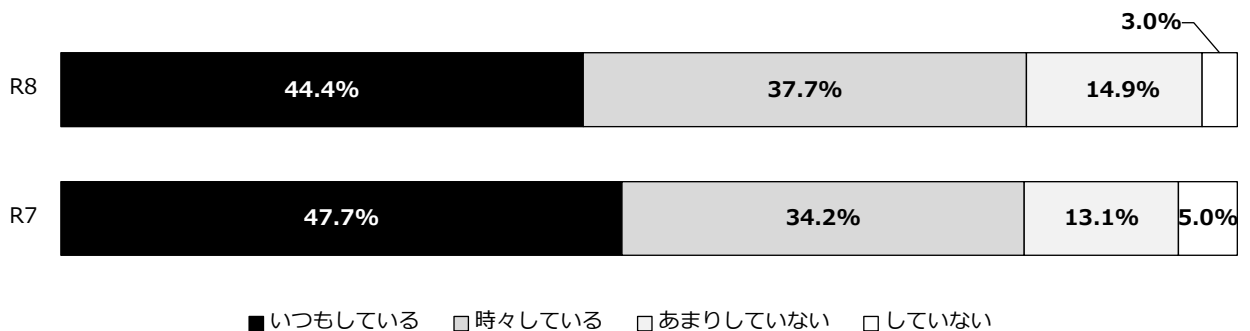


【概要・考察等】

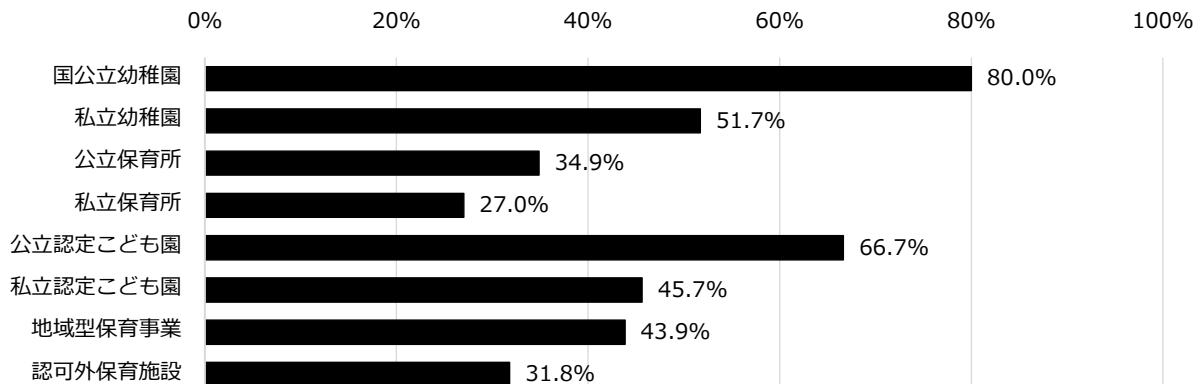
- 小学校等と協働で架け橋期のカリキュラムを「作成済みである」「作成予定である」と回答した割合は45.9%であり、近隣の小学校と協働して教育課程の編成を検討する傾向が見られる。
- 「作成予定は無いが、興味・関心がある」「作成する必要性を感じない」と回答した割合が54.1%であり、架け橋期のカリキュラム作成等に必要な体制整備が求められるため、引き続き、幼児教育施設・小学校・市町村等に対して、県内外の好事例等を共有し、必要な支援を行っていく。

2 基本的な生活習慣について（園長・所長のみ回答）

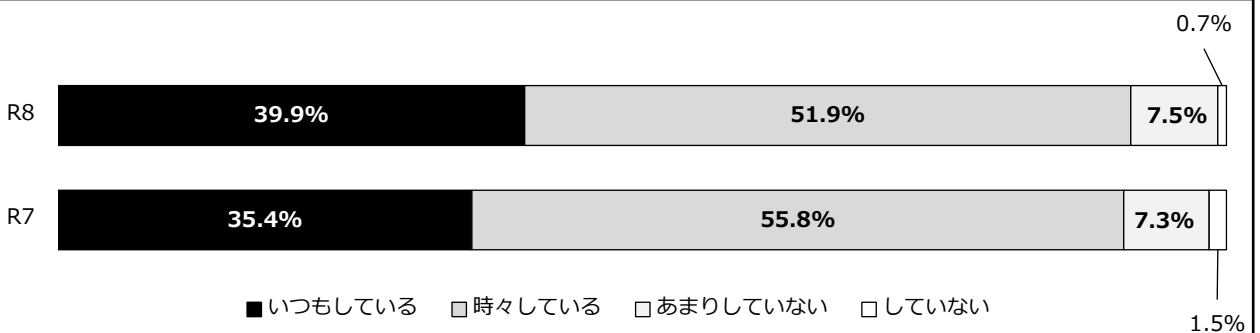
2-1 幼稚園や保育所等の活動において「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組をしていますか。



（今年度「いつもしている」と回答した施設類型別内訳）



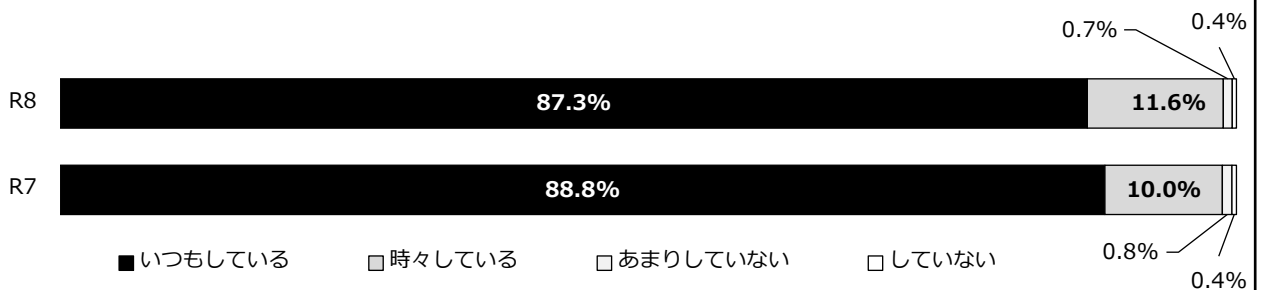
2-2 基本的な生活習慣の確立のために、家庭への啓発をしていますか。



【概要・考察等】

- 「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組を「いつもしている」「時々している」と回答した割合は82.1%と昨年度とほぼ同様だった。
- 家庭への啓発を「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、91.8%と高い割合だった。
- 家庭への啓発活動について多くの施設で取り組まれているが、基本的な生活習慣の確立のための重要性について理解を促進していくため、「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を更に図っていく必要がある。

2-3 外遊びや運動など体を動かす習慣の確立のための取組をしていますか。

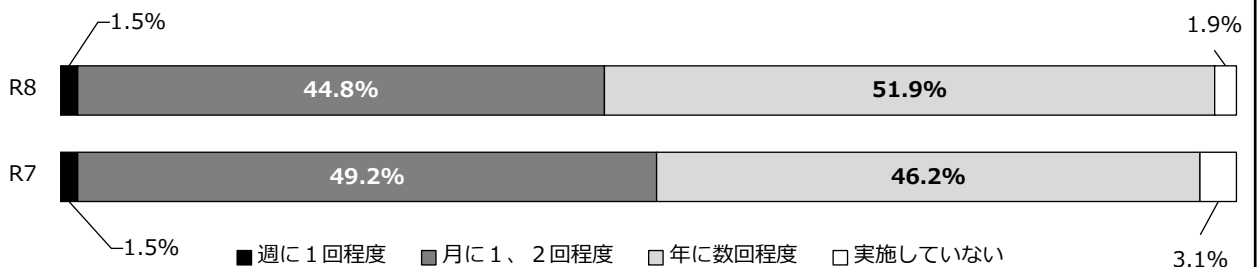


【概要・考察等】

- 体を動かす習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は、昨年度より1.5ポイント減少した。
- 「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、98.9%と昨年度とほぼ同様で、高い水準を維持しており、体を動かす習慣が着実に広がっていると考ええる。

3 園内研修について（園長・所長のみ回答）

園内研修の頻度についてお答えください。

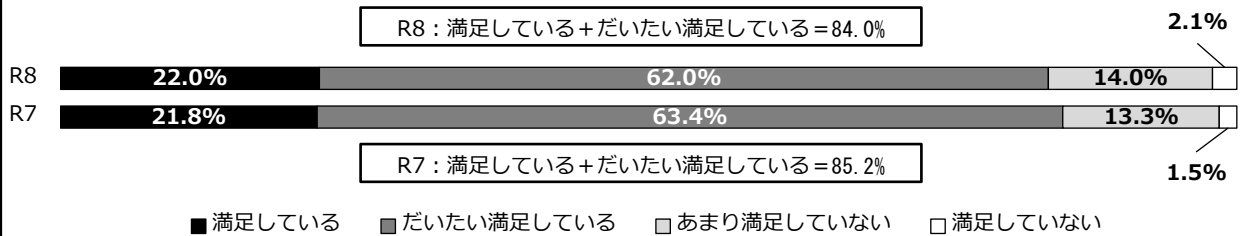


【概要・考察等】

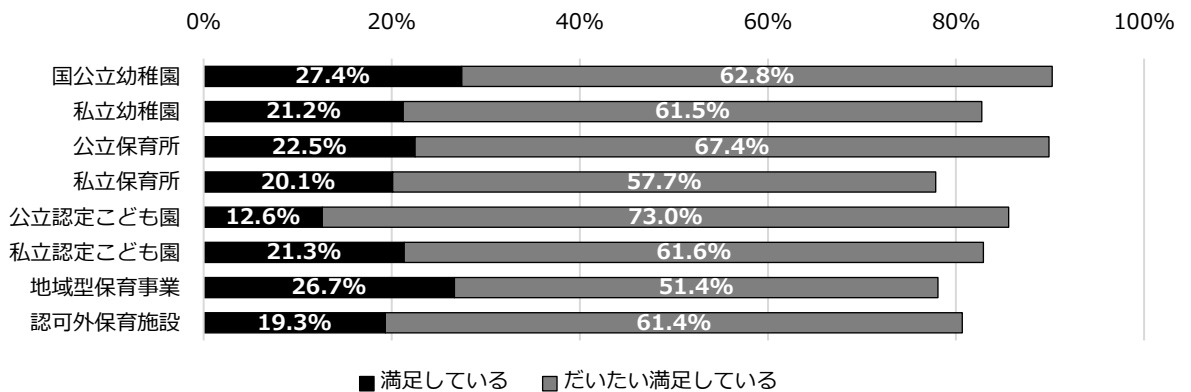
- 園内研修の頻度が「月に1、2回程度」と回答した割合は、4.4ポイント減少したものの、「年に数回程度」と回答した割合は、昨年度より5.7ポイント増加した。
- 「実施していない」と回答した割合は、昨年度より1.2ポイント減少しており、継続的・定期的な園内研修の取組が少しずつ定着してきていることがうかがえる。
- 引き続き、幼児教育アドバイザーの派遣やICTを活用した研修教材の提供など、継続的・定期的な園内研修の支援を行っていく必要がある。

4 研修について（全員回答）

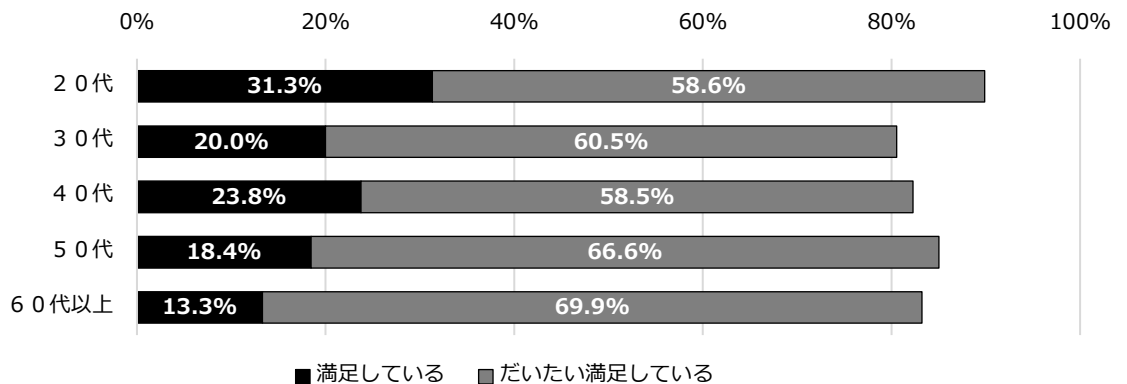
4-1-1 現在の御自身の研修状況についてお答えください。



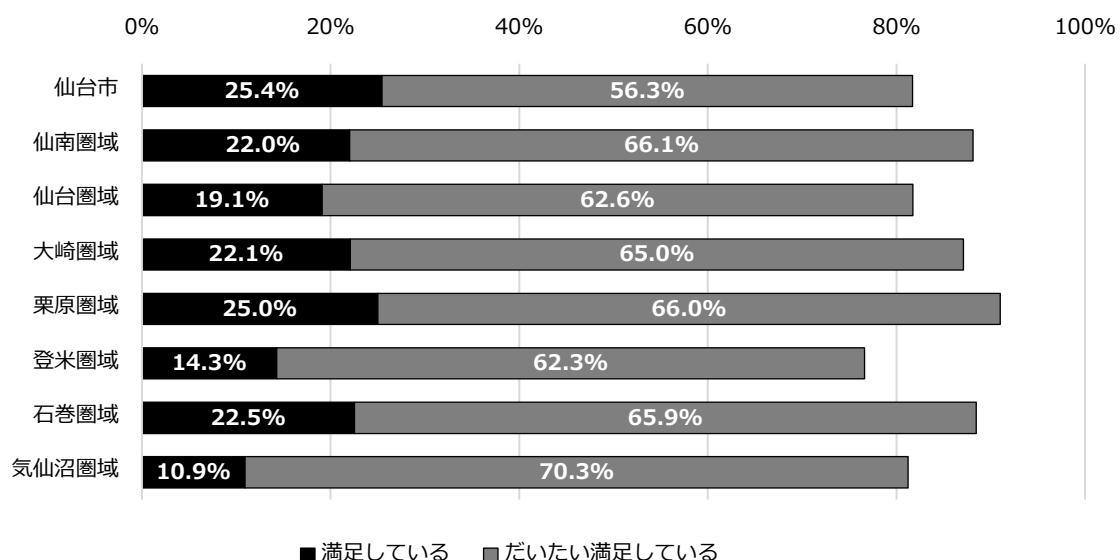
（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した施設類型別内訳）



（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した年代別内訳）



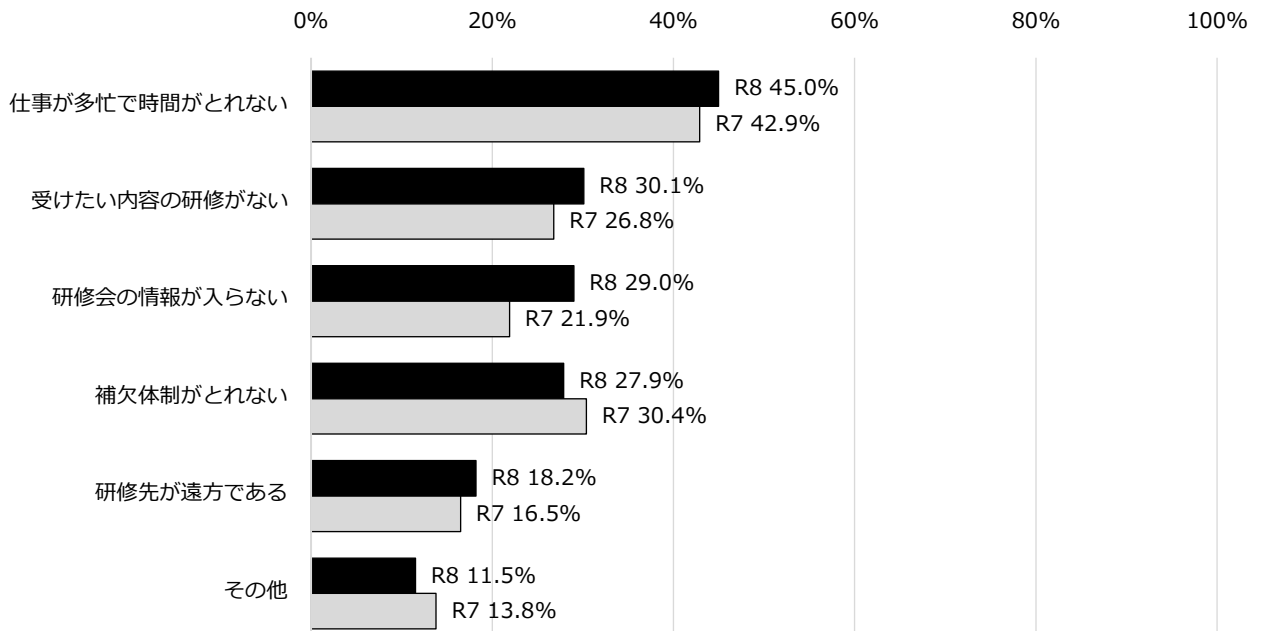
(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した圏域別内訳)



【概要・考察等】

- 現在の研修状況に「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、昨年度より1.2ポイント減少した。
- 年代別では「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、20代が89.9%で一番多く、30代が80.5%と一番低い傾向が見られた。
- 圏域別では「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、栗原圏域が91%と最も高かった。

4-1-2 「4-1-1」で「あまり満足していない」又は「満足していない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



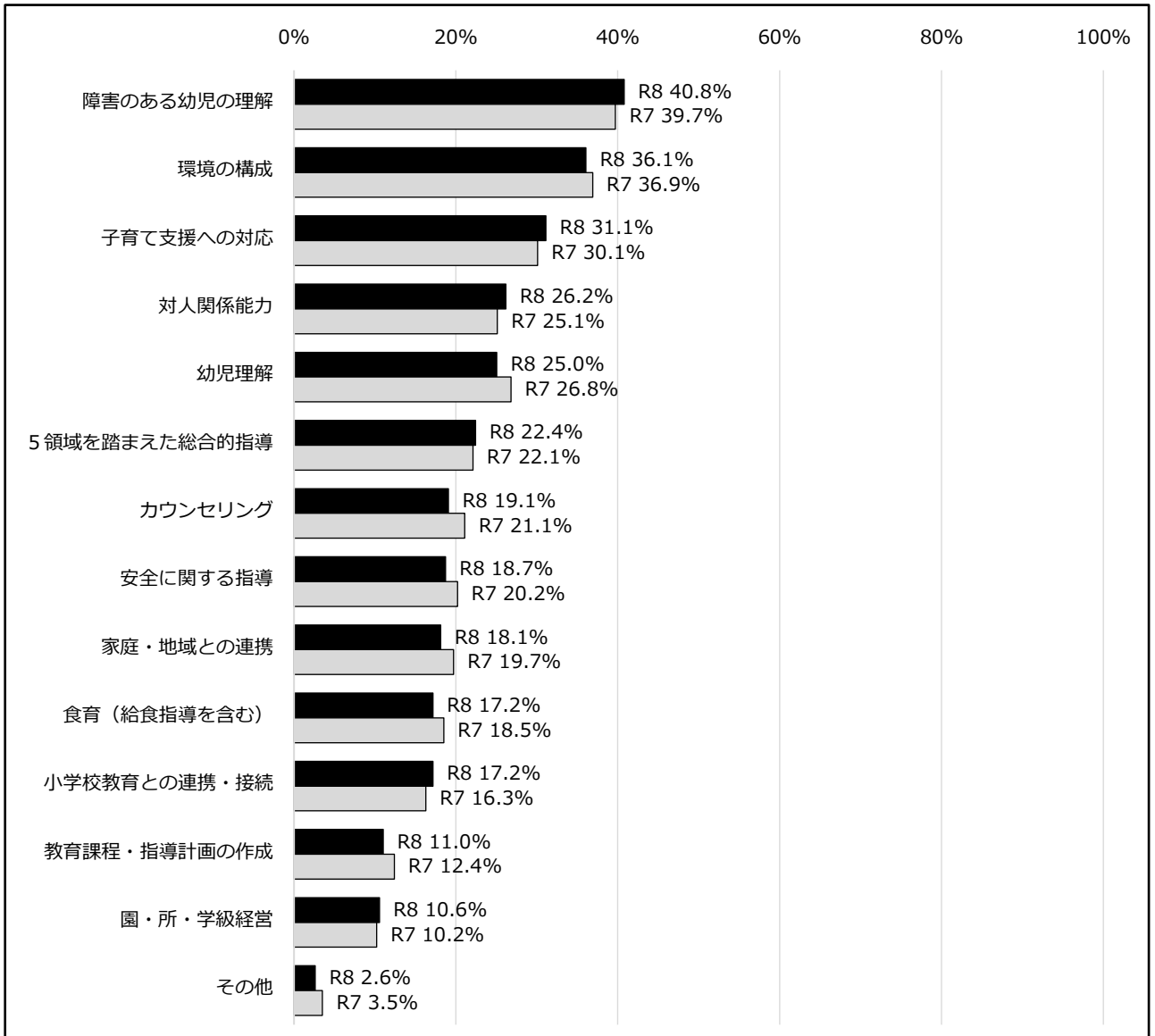
【その他の主な内容】

- 子育て中のため土日の研修は参加できない場合が多い
- 職場内で経験年数や職員体制に基づき受講を決めるため自由に受講することが難しい
- 勤務形態的に参加が難しい

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「仕事が多忙で時間がとれない」を理由として回答した割合が最も多く、昨年度より2.1ポイント増加した。
- 「研修会の情報が入らない」と回答した割合は7.1ポイント増加し、「研修先が遠方である」と回答した割合が1.7ポイント増加したことを受け、短時間でも効率的に研修を行うことが可能になるように、オンライン研修の実施やICTを活用した研修教材の提供など、研修の周知や方法を工夫していく必要がある。
- 自由記述の中で「職場内で経験年数や職員体制に基づき受講を決めるため自由に受講することが難しい」や「勤務形態的に参加が難しい」などが研修を受けることができない理由として挙げられていることから、園内の短時間研修・OJT（職場内訓練）の充実、幼児教育施設の勤務体制等の改善が必要であると考えられる。

4-2 今後、受講したい研修会等の内容についてお答えください。（該当するもの3つ選択）



【その他の主な内容】

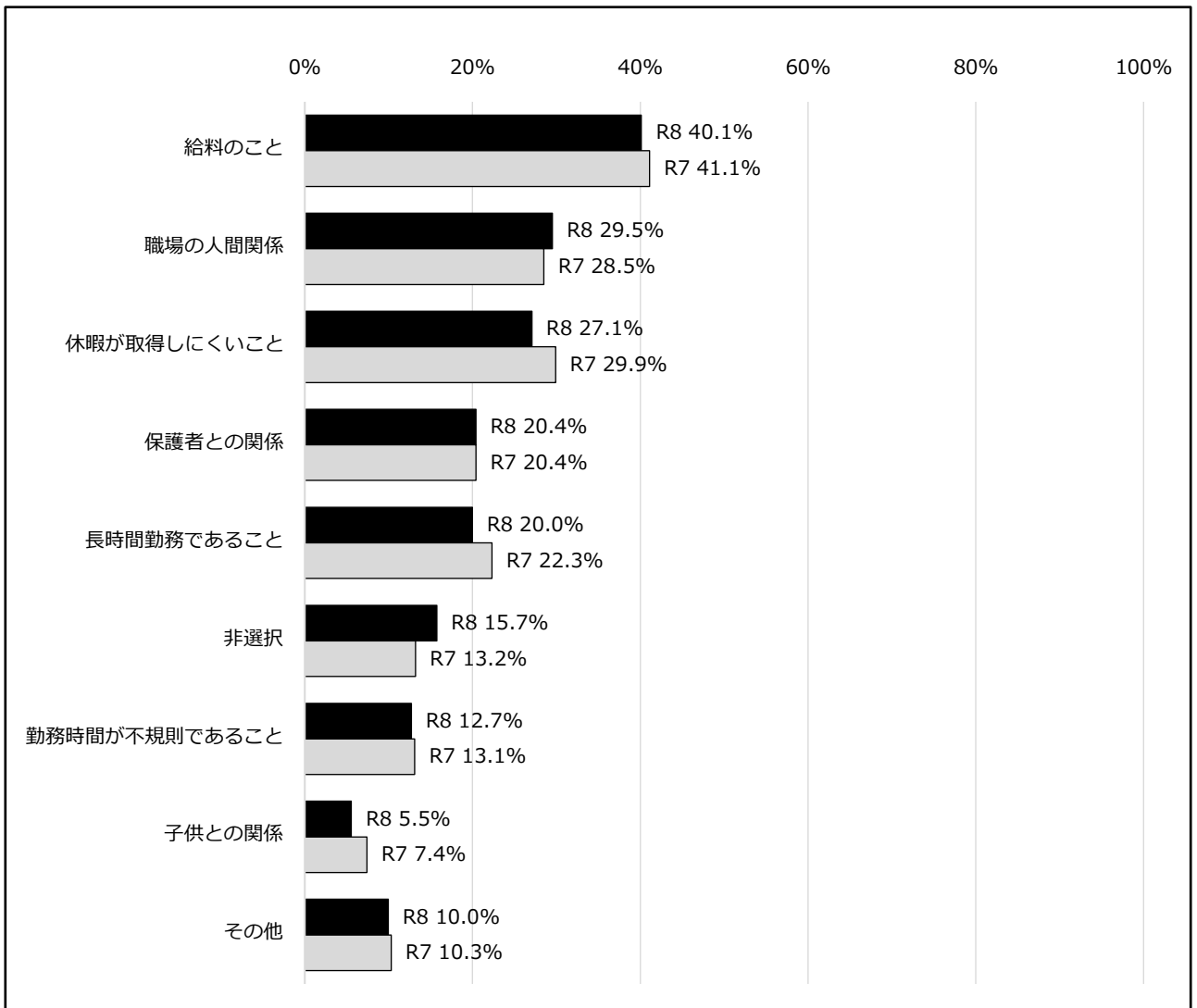
人材育成、救急救命対応、子供主体の保育実践、メンタルマネジメント、保育士指針や幼稚園教育要領等の改訂について

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「障害のある幼児の理解」や「環境の構成」を受講したい内容と回答した割合が多かった。
- 受講したい内容の順位は、概ね昨年度と変わらないが、「小学校教育との連携・接続」が昨年度より0.9ポイント増加した。「障害のある幼児の理解」「子育て支援への対応」「対人関係能力」「小学校教育との連携・接続」については、昨年度よりも回答率が上がっており、ニーズが高まっていることがうかがえる。

5 職業上の悩みについて（全員回答）

働く上で悩んでいることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

教職員の処遇改善、若手育成、人材確保、仕事量の多さ、園児の減少、働き方改革

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「給料のこと」を理由として回答した割合が最も高かった。
- 職業上の悩みの理由の順位は、概ね昨年度と変わらない。

6 「ルルブル」について（全員回答）

子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



- ☒ 「ルルブル」を実践（意識）している
- ☒ 「ルルブル」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- ☐ 「ルルブル」は知っているが、実践（意識）していない
- ☐ 「ルルブル」を知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より0.2ポイント増加した。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より1.8ポイント増加しているため、引き続き「ルルブル」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

7 「学ぶ土台づくり」について（全員回答）

幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



- ☒ 「学ぶ土台づくり」を実践（意識）している
- ☒ 「学ぶ土台づくり」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- ☐ 「学ぶ土台づくり」は知っているが、実践（意識）していない
- ☐ 「学ぶ土台づくり」は知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、68.7%であり昨年度とほぼ同様だった。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、81.4%であり、昨年度とほぼ同様だった。更に「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。